

世界を目指してギネス世界記録に挑戦！

取組の背景・目的

令和6年、一般財団法人児童健全育成推進財団のリーフレットに、子どもたちがギネス世界記録に挑戦して切磋琢磨していることが掲載されていた。高井戸西児童館では、児童館利用者の増加や利用促進をねらいとして、職員が子どもたちに呼びかける形で当該のイベントに参加した。

令和7年度には、前年度に参加した子どもたちから、イベントに参加したいとの声が上がった。公式戦に挑戦したいとの声もあり、個人情報保護など区の施設ゆえの制限がある中、子どもたちの希望を実現させるために、職員は各所との調整に取り組んだ。

取組の概要

実施場所

高井戸西児童館

実施頻度

期間中毎日

実施方法

- ・令和7年度は様々な調整の結果、公式戦ではなく、全国の子どもたちとインターネットのランキングで競い合う形式で参加した。
- ・インターネット上に、施設名と児童名（ニックネーム可）が掲載されるので、事前に個人情報の取り扱いについて親子で話し合ってから、保護者の方の了承を得られた児童のみ参加してもらった。
- ・“子どもたちと一緒にルールを作っていく”というテーマのもと、挑戦にあたってはどのような道具が適しているのか、どうすれば記録が伸びるか…など、子どもたちと一緒に確認して疑問点が出る度に確認するということを繰り返しながら自館の“ベスト”を探っていった。
- ・開催期間中は毎日挑戦できる時間を設けた。館内のランキングとインターネットのランキングに載せる記録は、必ず職員が確認して記録を取った。
- ・1位～3位までの子どもには、自館オリジナルの賞状を作成し授与した。

工夫点・留意点

- ・競技への取組については、職員はできるだけ口を出さず、子どもたちからの発見と気づきを大事にし、子どもの意見や考えを尊重した。
- ・公式戦（ギネス公式世界記録の審判の方のジャッジを受けて、うまくいったらギネス世界記録の認定証＋本に掲載される）に挑戦したいと希望するが、公式戦ではメディアの取材が入ったり、挑戦中の動画がインターネット上に配信されたりということがあり、児童館の個人情報の取扱いとの兼ね合いが課題となった。
- ・イベント主催者及び児童健全育成推進財団と交渉をして、顔を覆えるマスクをして動画配信に参加してもOK！というところまでこぎつけたが、好成績を収めた場合には顔を出す必要があるということで、課との協議も経て、児童館として公式戦への挑戦は難しいと判断した。
- ・代わりに、インターネット上で全国の子どもたちと競い合う形で実施し、成績優秀者には自館で表彰を行うこととした。

取組の効果

- ・イベント終了後も「もっとギネスに挑戦したい！」という声が多く、児童館独自の取組として毎月種目を設定し、ランキング形式で子どもたち同士で競い合って盛り上がっている。
- ・ペア種目を通じて学年を超えた交流が盛んになった。
- ・イベントをきっかけに来館した子もいて、利用増にもつながった。

課題・今後の展開

- ・子どもの意見を取り入れながらの開催のため、細かなルール変更や確認することが多く、職員間の情報共有がうまくいかず難しい部分があった。
- ・館全体で盛り上げるためには一部の職員だけの熱意があってもうまくはいかず、スムーズな連携が必要なのだと痛感した。
- ・子どもからの意見は、動画配信も入る公式記録に挑戦したかったという声もあがったが、来年度も自館に合った形で職員も子どもも一緒に楽しめるものにしていきたい。